



ナマズの知恵袋

平成30年(2018年) 4月1日
編集・発行 滋賀県立図書館

もっと知りたい明治時代

今年は「明治150年」にあたり、当時の文化や制度・風習等に関心が高まっています。そこで今回は、明治という時代を調べるためのいろいろな切り口をご紹介します。



明治に活躍した人物を調べる

■『図説明治人物事典』湯本豪一編 日外アソシエーツ 2000年[R-2810-1]

文化人・学者・実業家編と政治家・軍人・言論人編の2巻からなり、図像も多数掲載された人物事典。

■『明治大正人物事典』日外アソシエーツ編刊 2011年[R-2810-2]

政治・軍事・産業篇と文学・芸術・学術篇の2巻。本名・旧姓名・別名等、記載項目が充実。

■『事典近代日本の先駆者』富田仁編 日外アソシエーツ 1995年[R-2810-1]

日本の近代化の「さきがけ」として活躍した日本人100名を収録。ジャンル別人名目次／事項索引がある。

人物でみる湖国の明治 ～湖国を愛した外国人たち

●アーネスト・フランシスコ・フェノロサ

アメリカ人。明治11年(1878年)に来日、岡倉天心とともに東京美術学校(現・東京芸大)設立に尽力、また海外に日本文化の魅力を紹介しました。後に仏教に帰依し、三井寺に葬られました。

参考:『三井寺に眠るフェノロサとビゲロウの物語』

山口静一著 宮帯出版社 2012年[S-7011-12]

◆ 日本文化に魅せられて・・・

■『フェノロサ・天心の見た近江 明治21年臨時全国宝物調査から』

滋賀県立琵琶湖文化館編刊 2004年[SB-7011-04]

■『フェノロサ夫人のニッポン日記』

京都新聞連載記事スクラップ 自館製本 1981年[5B-7011-81]

■『コスモポリタンの蓋棺録 フェノロサと二人の妻』

平岡ひさよ著 宮帯出版社 2015年[S-7011-15]

●ヨハネス・デ・レーケ

明治6年(1873年)来日、日本の「砂防の父」と呼ばれるオランダ人土木技術者。彼の指導のもと建造された草津川の砂防ダムは「オランダ堰堤」の名で知られ、いまでも土砂災害から人々を守っています。

参考:『12歳から学ぶ滋賀県の歴史』サンライズ出版

2005年[S-2100-05]

◆ 治水の近代 琵琶湖疎水はこうしてできた・・・

■『明治初期に内務省が招聘したオランダ人技術者に関する調査』

国土交通省河川局 2004年[YB-5172-1]

■『琵琶湖疎水の100年《資料編》《画集》《叙述編》』

京都新聞社編 京都市水道局 1990年[YB-5176-1]

■『琵琶湖疎水圖誌』

琵琶湖疎水図誌刊行会編 東洋文化社 1978年[SB-5111-78]

●ウィリアム・メレル・ヴォーリズ

アメリカ人。明治38年(1905年)に英語教師として来日。近江八幡を拠点にキリスト教に基づく社会教育事業等のかたわら、建築設計をてがげました。「ヴォーリズ建築」の名で今も日本各地に残る彼の建造物は、近代日本の貴重な文化遺産として伝えられています。

参考:『メレル・ヴォーリズ 日本人を越えたニホン人』近

江兄弟社制作 びわ湖放送 1998年[S-1941-98]

◆ 湖国近代建築めぐり

■『湖国のモダン建築』

石田潤一郎著 京都新聞出版センター 2009年[S-5200-09]

■『ヴォーリズ建築の100年 恵みの居場所をつくる』

創元社 2008年[SB-5200-08]

■『滋賀県の近代和風建築 滋賀県近代和風建築総合調査報告書』

奈良国立文化財研究所編 滋賀県教育委員会 1994年[SB-5200-94]



見て、読んで知る明治の生活

幕末から明治にいたる激動の時代のなかで、人々の暮らしはどう変化したのでしょうか。いまから 150 年前の生活を、資料を通して追体験してみませんか。

■『ビジュアル・ワイド明治時代館』佐々木隆著 小学館 2005年[GB-2106-サ]

明治時代の政治・産業・文化・習俗などあらゆる分野について、多数の写真や図版をまじえながら紹介する1冊。当時の生活について、イメージを掴むのに役立ちます。

■『近代庶民生活誌』南博編 三一書房 1985年[2-3821-1~20]

近代の人々の暮らしを詳しく知るために、当時の書籍やカタログ、調査資料など膨大な文献を採録した大著。各巻に「食・住」「遊戯・娯楽」といったテーマが定められており、巻末には収録文献の解説つき。全20巻。



明治に始まった物事を調べるには？

■『図説明治事物起源事典』湯本豪一著 柏書房 1996年[R-0314-1]

当時流行した風刺画をまじえながら、明治期に始まったものごとを紹介する事典です。たとえば「新聞」のように、現代の生活にも身近なものも、明治時代に始まっていることがわかります。

■『明治事物起源 1~8』石井研堂著 筑摩書房 1997年[3-0314-1~8]



明治時代のメディアあれこれ

明治3年12月8日、政府による新聞許可制のもとで日本最初の日刊邦字新聞である「横浜毎日新聞」が創刊されました。新聞をはじめとして、明治時代には様々なメディアが発達していきます。

■『日本新聞発展史 明治・大正編』大西林五郎原著 樽書房 1995年[2-0702-オ]

■『明治の文芸雑誌 その軌跡を辿る』杉本邦子著 明治書院 1999年[2-9102-ス]



明治時代、滋賀にも新聞があった？

■『地方別日本新聞史』日本新聞協会編刊 1956年[2-0702-ニ]

滋賀県における新聞のさきがけは、明治6年に創刊された「琵琶湖新聞」でした。日本全国の地方新聞の背景を知ることができる一冊。



●明治時代の政治について調べるには？

■『日本議会政治史事典 トピックス 1881-2015』

日外アソシエーツ編刊 2016年[R-3121-ニ]

●社会と政治の本質をわかりやすく民衆に伝えた風刺画や漫画が見たい！

■『風刺漫画で日本近代史がわかる本』湯本豪一著 草思社 2011年[G-2106-1]

■『漫画に描かれた明治・大正・昭和』清水勲編著 教育社 1988年[4B-2106-シ]

●今日をにぎわう近代の裏の顔～メディアは社会の暗黒面をどう伝えたか～

■『都市下層社会 明治前期労働事情』西田長寿編 生活社 1949年[3-3682-ニ]

文明開化によって「便利」で「豊か」になりましたが、その一方で、近代は、労働環境の悪化や貧困等さまざまな社会病理に蝕まれた時代であり、それらに対する告発がメディアを賑わせました。本書には、その嚆矢となった「東京府下貧民の真況」（朝野新聞連載記事、明治19年（1886年））から、「大阪名護町貧民窟視察記」（鈴木梅四郎著、明治21年（1888年））、「貧天地饑寒窟探検記」（桜田金吾著、明治23年（1890年））、そして著名な「最暗黒之東京」（松原岩五郎著、明治26年（1893年））に至る、明治時代の厳しい労働実態やスラム化が進んだ都市問題についての貴重なルポルタージュが採録されています。

近江デジタル歴史街道（デジタルアーカイブ）で一部ご覧いただけます。

